

「世界に開かれたミヤザキ」

2023年は、宮崎県が置県から140年を迎えた節目の年でした。この年には、国内外から多くの人々が宮崎を訪れ、宮崎の魅力や課題に触れ、交流や協力を深めました。特に、4月に開催された「G7宮崎農業大臣会合」と10月末に開催された「宮崎県人会世界大会」は、宮崎の歴史に残る大きなイベントでした。これらのイベントを通して、宮崎県は世界に認知され、若い世代に夢を与えることができたと思えます。

「G7宮崎農業大臣会合」は、G7広島サミットの関係閣僚会合の一つとして、宮崎市のシーガイアコンベンションセンターで開催されました。G7メンバー国の農業大臣と国際機関の代表者が参加し、食料安全保障や農業の持続可能性など、世界の農業を取り巻く共通の課題について議論しました。会合では、「G7農業大臣声明」と「宮崎アクション」という成果物が採択されました。「G7農業大臣声明」では、気候変動や生物多様性の保全など、地球環境に配慮した農業政策の重要性が強調されました。「宮崎アクション」では、G7各国が取り組むべき具体的な行動が示されました。例えば、デジタル技術や革新的な技術を農業に活用することや、女性や若者など多様な人々が農業に参加できるようにすることなどです。

「宮崎県人会世界大会」は、国内外で活躍する宮崎県出身者やゆかりのある人々が一堂に会し、ふるさと宮崎への想いを共有し、その魅力を再発見することを目的とした大会でした。この大会は初めて開催されたもので、ブラジルやアメリカ、中国など33の県人会から約260人と、一般県民など合わせて約650人が参加しました。大会では、「つながろうひなたでつなげよう世界へ」というキャッチフレーズのもと、記念式典や記念コンサートが行われました。また、伝統文化体験コーナーや市町村PRブースなども設けられ、参加者は宮崎の文化や特産品に触れることができました。大会では、「宮崎県人会次世代会議」というイベントも開かれました。これは、若い世代が主体となって県人会の活動を次世代につなぐための会議でした。参加者は、県人会の役割や課題、今後の展望などについて意見交換しました。



これらのイベントは、宮崎県が世界に開かれた県であることを示すとともに、宮崎県が世界に貢献できる可能性を示しました。また、宮崎県の自然や文化、食や産業など、多くの魅力を再発見し、世界に発信する機会となりました。さらに、宮崎県出身者やゆかりのある人々が本県とのつながりを強め、県人会の活性化を図ることができました。これらの成果は、若い世代に夢や希望を与えることにもつながります。宮崎県が、これからも世界と積極的に交流し、持続可能な発展を目指していくことを応援しましょう。

- このコーナーへのご質問、ご意見、ご要望がありましたら、宮崎県国際交流協会（MIF）までご連絡ください TEL：0985-32-8457 FAX：0985-32-8512 Email miyainfo@mif.or.jp
- 毎日の生活に関して、ご質問、心配事あるいは関心ごとなどありましたら、「みやざき外国人サポートセンター」にご連絡下さい。TEL：0985-41-5901 FAX：0985-41-5902
Email: support@mif.or.jp